

平成27年度 矢掛町立矢掛中学校学校評価書

校長 渡邊 求

<p>本校のミッション</p> <p>今日より輝く明日のために</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>目的をもって登校できる</li> <li>確かな学力を身につける</li> </ul>	<p>学級数</p> <p>11 学級</p>	<p>児童(生徒・園児)数</p> <p>311 人</p>
	<p>職員数</p> <p>31 人</p>	<p>家庭数</p> <p>276 戸</p>
<p>学校関係者評価委員</p> <p>                     檜崎 裕志 (矢掛町人権擁護委員・元中学校長)                      安藤 壽司 (町費校務支援員・元小学校長)                      堀 賢一 (矢掛中学校PTA)                      古城賀津子 (地域支援コーディネーター)                      岩崎 恭子 (家庭環境改善サポーター)                      笹井美帆子 (山田公民館主事)                      諏訪 英広 (兵庫教育大学大学院)                      高木 亮 (就実大学)                      川上 公一 (県立矢掛高等学校長)                 </p>		

A 成果をあげている B ほぼ成果をあげている C あまり成果をあげていない D 成果をあげていない

領域	中期目標	単年度目標	具体的計画	達成基準	自己評価	評価
1	確かな学力	・学力向上を目指した授業改善を図る。 ・総合的な学習の時間を系統的な取組にする。	・各教科の授業で、電子黒板や指導用デジタル教科書等のICTを効果的に活用する。 ・ベアやグループ活動を取り入れ、進んで考えを述べるができるように支援する。 ・3年間の系統的な取組で、課題設定力や課題追求力、情報活用能力、プレゼンテーション力を育む。	・ICTを活用し、わかりやすい授業に努めている教員が80%以上いる。 ・60%以上の生徒が、授業中に自ら進んで考えを発表している。 ・70%以上の生徒が「総合的な学習の時間」では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる。	・電子黒板などのICTを効果的に活用した授業を行ったと回答した教員は83%で、ほとんどの教科で活用できている。来年度は教科書が改訂となり、新しいデジタル教科書の活用ための研修が必要となる。93%の生徒が「授業は分かりやすい」と肯定的な回答をしている。 ・「自分の意見や考えを伝える場面がある」と答えている生徒は88%いるが、「授業中は、自分の意見や考えを進んで発表している」と答えている生徒は58%であった。昨年度の45%より増え、自分の意見を積極的に発表できるようになってきている。 ・3年生の全国学力学習状況調査では、83%の生徒が「総合的な学習の時間」に、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいると答えている。(全国58%、岡山県58.1%) ・3年間の系統的な取組のもと、積極的に活動している様子がよくわかる。また、89%の生徒が「学校行事や総合的な学習の時間に積極的に参加し、充実感を味わっている」と回答している。	B
2	確かな学力	・家庭学習と自学自習の充実を図る。	・帰りの会でドリル学習(夕学)を行うことで、基礎学力の向上を図る。 ・家庭と協力して、家庭学習強化期間の取組を充実し、自学自習のノート作りや家庭生活プランニングを指導する。	・80%以上の生徒が、丁寧に課題やドリル学習に取り組んでいる。 ・60%以上の生徒が、1時間以上家庭学習に取り組んでいる。	・全国学力学習状況調査では、国語ABは全国平均を大きく上回った。数学ABは岡山県と同程度で、理科は全国と岡山県の中間程度の成績であった。 ・帰りの会の学習(夕学)では、83%の生徒が「まじめに取り組んでいる」と回答している。2年目をむかえ、定着してきた。 ・80%の生徒が「学校の宿題は、家できちんと取り組んでいる」と答えているが、1時間以上家庭学習する生徒は3年生で56%(全国学力学習状況調査 全国69%、岡山県59%)、2年生で44.2%(標準学力調査 全国55.5%)、1年生で70.2%(岡山県学力学習状況調査 岡山県65.1%)と2・3年生は全国・岡山県に比べ学習時間が少ない。	C
3	支え合う生徒	・支え合える、認め合える、繋がり合える集団づくりをする。	・学び合いを通して、共に学びながら居場所のある学級づくりに取り組む。 ・授業や学校行事で考えを述べ合ったり、互いを認め合ったりする場面を設定する。	・5月のQUアンケート結果よりも学級生活に満足している生徒が増えている。 ・80%以上の生徒が「意見を述べられる場面がある」と回答している。	・QUアンケートでは、学校生活満足度が5月の59%から7月の73%に増えている。特に2年生の伸びが顕著である。(5月66%→7月83%) ・「授業では、自分の意見や考えを述べる場面がある」と88%の生徒が答えている。「学び合い学習」を通じて、意見や考えを述べる場面が多く設定されている。	A
4	支え合う生徒	・社会的実践力が身につくようにする。	・生徒会や専門委員会の活動と連携し、矢掛中学校三つの誇りが実践できるようにする。 ・生徒が主体的に地域の活動に参加するよう支援し、参加の状況を積極的に公開する。	・80%以上の生徒が、矢掛中学校三つの誇りを意識して実践しようとしている。 ・50%以上の生徒が地域の活動に参加している。	・「あいさつができる」95.5%、「時間を守る」95.6%「清掃にまじめに取り組む」94.6%と全項目で基準値を大きく超えている。昨年、一昨年と比べて大きく伸び、学校全体が落ち着いた雰囲気になっていることがよくわかる。 ・夏のボランティア活動に164名が参加し、さらに、158名の生徒が公民館活動や町主催の祭りなどの地域行事に積極的に参加し、地域住民の方々と交流を図っている。	A
5	生徒の支援	・学校生活に適切に個別の支援を充実させる。	・不登校の未然防止、小中連携の効果的な取組を行うとともに、スクールカウンセラーや外部機関との連携を一層密にする。 ・生徒指導上の課題を学校アドバイザーの活用や関係機関との連携を密に取りながら、落ち着いた学校づくりに取り組む。	・不適応傾向のある生徒について、専門家と連携して支援方針を定め、状況に応じた他機関の援助を得ている。 ・生徒指導の方針を徹底し、学校アドバイザーや関係機関と連携をとり、生徒指導上の課題のある生徒に対応していく。	・「学校へ行くことが楽しい」と生徒は92%、保護者は90%回答しているが、「学校へ行くことが楽しくない」と思っている生徒・保護者があり、各学年とも不登校の生徒がいる。家庭・本人・学校との密な連携を図り、登校意欲を高めるように努めている。 ・心の教室の活用やスクールカウンセラーとの連携、学期ごとの教育相談を行っている。また、家庭環境改善サポーターや支援員との協力、ひまわりの家との連携などにより再登校に向けての支援を行っている。個別のケース会議も適宜行っている。 ・学校アドバイザーの助言やスクールソーシャルパートナーの支援を生かし、必要に応じて関係機関とも連携を図りながら、落ち着いた学校生活を送れるように指導に当たり、効果を上げている。	B
6	生徒の支援	・特別支援教育の充実を図る。	・特別支援コーディネーターを中心に教職員・支援員が密に情報交換をし、個別の支援を充実させる。 ・関係機関、専門家、保護者と連携し、個別支援を充実させる。 ・特別支援教育に関する校内研修を行う。	・特別な支援を要する生徒が安心して充実した学校生活を送っている。 ・学校、家庭、地域で支援方針を共有し、一貫した支援を行っている。 ・関係機関と連携し、事例毎により適切な支援方針を定め、支援している。	・知的障害学級に5名、自閉・情緒障害学級に9名の生徒が在籍しており(5月に1名転校してきたため)、自閉・情緒障害学級は運用上2学級に分けている。各学級担任、特別支援コーディネーター、特別支援教育支援員5名を配し、それぞれに応じた支援を行っている。 ・知的障害学級の5名は学力に差があり、個別の指導が必要となっている。 ・自閉・情緒障害学級は個別の学力の差が顕著に見られ、通常学級とほぼ同じ学習を行うことに無理が生じている。 ・通常学級に在籍する生徒の中にも発達障害または発達障害の疑いのある生徒が複数見られ、関係機関とのケース会議や専門家の助言などの指導を受けている。	B

分析・改善策

・電子黒板やデジタル教科書を取り入れた授業は多くの教科で行われている。しかし、来年度は教科書が改訂され、デジタル教科書も新しくなり、各教科での研修が必要である。  
・「学び合い学習」の成果として、ベアやグループでの活動が多くなり、表現活動の育成が図られてきた。  
・全国学力学習状況調査や岡山県学力学習状況調査の結果を受けて、夕学での全国学力学習状況調査の演習や発展問題を取り入れた授業展開を継続的に行う必要がある。  
・家庭学習の習慣づくりが大きな課題になっている。教師の出方や指導方法の工夫が必要である。また、家庭での生活の見直し(プランづくり)や町全体と取り組んでいる「家庭学習強化期間」とも連携して、家庭と協力して学習習慣の定着を図りたい。  
・QUアンケートを実施することで学級での所属感や人間関係を知り、望ましい人間関係を構築できるように有効に活用したい。  
・夏のボランティア活動や地域のボランティア活動へは延べ322人の生徒が参加し、ボランティア活動が学校全体の取組となってきている。  
・矢掛中学校の3つの誇り「あいさつができる」「掃除ができる」「時間を守る」は生徒会が中心になって意図的に活動している。日常生活から貫貫しながら指導していきたい。  
・中1キャンプの克服のため、年2回の中学校体験授業を行っている。また、心の教室の支援体制や適応指導学級「ひまわりの家」とも連携を図り、不登校の予防に努めている。  
・生徒指導の取組として、ルールやマナーを守る指導を徹底するとともに、学校行事や日々の生活の中での達成感や自己有用感を持つことができるようにしていきたい。  
・特別支援学級に在籍する生徒の数も多くなり、来年度は知的障害学級2クラス、自閉・情緒障害学級2クラスになる予定である。クラス編成を縦割りにするなどの工夫をして運営していきたい。また、通常学級に在籍する生徒の中にも個別に支援を必要としている生徒がさらに増加する。このような状況に対応するために、一層の人的支援の充実が必要となっている。

学校関係者評価

1. 確かな学力  
・全国学力学習状況調査の結果などから、確かな学力が定着してきていることが分かる。生徒の頑張りとともに教職員の熱心な取組の成果が表れているものと考えられる。  
・授業の中に「生徒が活躍する場」「発言できる場」を意図的に設定した授業がなされていることで、生徒が「できた」「分かった」「認められた」という体験をし、意欲的に学習に取り組んでいる。  
・家庭学習の積み重ねや課題をやり切る習慣を付けることが、学力の向上につながることを生徒に理解、実感させることが重要である。家庭学習の指導は今後も継続して取り組んでほしい。そのためには、これまで以上に小学校と連携した継続的な取り組みが必要と考える。  
・生徒が将来への希望や目標を持つことで、より意欲的に生活や学習に取り組むようになると思う。

2. 支え合う生徒  
・グループ学習、ベア学習の習慣が定着し、「共に学ぶ」風土ができていると同時に、「競い合う」風土も培われているように思う。  
・学校生活に満足感を抱いている生徒の割合が高いのは、日頃からの集団づくり、学級づくりと先生と生徒の信頼関係の賜物だと思う。それを築き上げたものは何かを指導する先生がはっきり認識できれば先生方にとって大きな財産となると思う。  
・生徒のボランティア・地域活動が非常に活発になされおり、本校の良さ伝統になっている。今後も継続してほしい。  
・他の中学校と比較しても、本校の生徒はあいさつがよくできている。このことを地域の方々にさらに理解してもらおう工夫が必要である。  
・公民館等での校外活動において、生徒が自ら考え、実践する場面が多く見られる。中学校で自分の意見や考えを伝える経験を積んでいることの成果とも考えられる。

3. 生徒の支援  
・校内が非常に落ち着き、「学校が楽しい」とする生徒が90%を超えていることは、教職員の取組が功を奏していることの表れであり、また、保護者も90%を超えていることは、学校・教職員に対する信頼の高さの表れである。  
・不登校生徒やその保護者に対して、いろいろな方面からアプローチし、各種機関や専門家と連携して組織として取り組んでいる。「生徒は必ず動き出す」ことを信じ、今後も根気強く取り組んでほしい。  
・特別支援学級に在籍する生徒が増加していることについて、インクルージョンの観点や高校進学及びその後の進路保障の観点から、障害の程度によっては普通学級への入級も考慮が必要である。

4. 総論(全体として)  
・アンケートは大切な資料・データではあるが、その数値に振り回されることなく、教職員が自信を持って取り組んでいることを保護者・地域の方々に伝えてほしい。  
・先生方がプロとしての自信を持ち、同時に他人の意見を聞く謙虚な気持ちを持って取り組まれているように思われる。  
・アンケートの結果を学校より「復讐」などで保護者に伝えることは、保護者の学校に対する信頼感につながる。  
・教科指導も生徒指導も「何もかも」と欲張るのではなく、「これはできた」というものを生徒も教師も実感できると大切である。その「できた」という思いや経験は他のことにも波及していくと信じる。  
・教員の異動のある年度変わりに、新メンバーで「今までの財産」を共有すると同時に新メンバーの率直な感想・意見を取り入れていく場を作ることが必要である。  
・心身の健康に気を付け、「矢掛中に動いて良かった」と思える教師集団であってほしい。

5. 設置者等への要望  
・学校運営協議会からの要望書に示された内容について、生徒の学習・生活環境を維持・向上させる施設・設備面(教室棟の屋根や天井等の危険箇所の修繕、部室の屋根の修繕やテニスコートの整備、保護者へのメール配信システムの導入や校内放送のデジタル化)および人事面(特別支援教育に係る教員の加配、小中連携を要として推進する中学校所属職員の新規の配置、不登校対策の充実のための加配教員の配置、学校教育の円滑な実施に資するための町費事務職員の継続配置など)での手厚い支援をお願いしたい。

来年度の重点・方針

1. 確かな学力を身につける。  
①「確かな学力を身につける」とは、「基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得、これらを活用して課題解決する思考力や判断力、表現力等の育成、そして主体的に学習に取り組む態度を育むこと」と捉える。  
②「学力の向上を目指した授業改善を図る」  
・各教科の授業で、電子黒板や指導用デジタル教科書等のICT、教材提示装置を効果的に活用する。  
・ベアやグループ活動による学び合い学習を取り入れ、相互に関わり合える場面を設定する。基礎基本の定着を図り、また、レベルの高い課題解決に共に取り組むことで活用力を育む。  
・生徒が進んで考えを述べ合い、生徒の発言が繋がって授業を実践する。  
③総合的な学習の時間を系統的な取組にする。  
・1学年で地域を学ぶ、2学年で地域で学ぶ、3学年で地域・社会に貢献するという観点で取り組む。3年間の系統的な取組を通して、課題設定力や課題追求力、情報活用力、プレゼンテーション力を育む。  
④家庭学習の充実を図る。  
・帰りの会でのドリル学習(夕学)を充実する。  
・「家庭学習スタンプカード」を基に、「宿題と自主学習」に重点において取り組む。  
・家庭と協力して、年3回の矢掛町家庭学習強化期間の取組を充実させる。また、夏の学習会に目的をもって参加するように促す。保護者が関心を持ち、適切に援助できるように学校だよりや学年だよりで啓発していく。

2. 支え合える、認め合える、繋がり合える集団づくりをする。  
①良好な学級の雰囲気づくりに努め、生徒の自己肯定感を高める。  
・学び合い学習を通して、聴き合える、伝え合える、繋がり合える学級づくりに取り組む。  
・学校行事、学年行事、学級活動などを通して、認め合える、繋がり合える学級づくりに取り組む。  
・道徳の授業を研究し、充実させ、他者への共感、豊かな心情、道徳的な実践力を育む。  
②社会的実践力が身につくようにする。  
・生徒会や専門委員会の活動を通して、矢掛中学校三つの誇りが実践できるようにする。  
・情報モラル教育を充実させ、スマートフォンなどの端末機器を正しい判断力を持って使うようにする。  
・「地域に支えられ、地域を支える学校」として、生徒が主体的に地域の活動に参加するよう支援し、参加の状況を積極的に公開する。

3. 学校生活に適切に個別の支援を充実させる。  
①学校に適切に個別の生徒への支援を充実させる。  
・不登校の未然防止に向けて、小・中連携の効果的な取組を行うとともに、スクールカウンセラーや外部の関係機関との連携を一層密にする。  
・生徒指導上の課題の未然防止に向けて、学校アドバイザーの活用や関係機関との連携を密にする。防犯教室や講演会を行い、規律のある落ち着いた学校づくりに取り組む。  
・不登校発生率を全国平均を下回る数値目標を設定し、その達成に取り組む。  
②特別支援教育の充実を図る。  
・特別支援コーディネーターを中心に教職員・支援員が密に情報交換をし、個別の支援を充実させる。  
・関係機関、専門家、保護者と連携し、個別支援を充実させる。  
・特別支援教育に関する校内研修を計画的に行う。

4. 総論  
①生徒指導や学力向上について指導方針を明確にし、共通理解を図り、教職員が一丸になって課題に取り組む。  
②コミュニティ・スクールとして、地域とともにある学校の在り方を研究し、地域と学校をつなぐマネジメントの強化を図る。  
③心身ともに健康で、同僚性のある教職員集団づくりを目指す。